

## <個人山行>

## 八ヶ岳 阿弥陀岳北西稜

日時： 2012年3月24日(土)～25日(日)

参加： 嶋原(L)、以倉、小俣、佐々木裕(記)

3月23日(金) 雨 PM9時、新大阪 嶋原車で出発。千葉県からの小俣さんとは、茅野駅で待ち合わせ。AM2時、風の無い2階凹部で1人シュラフに包まって寝ていた、オー・・・山女！久しぶりです。

積雪の林道を、帰りの事を考え美濃戸口から行ける所まで入るつもりで進む。赤岳山荘からさらに美濃戸山荘終点まで入ったのが間違い、4駆スノウタイヤも凍てついた道にはかなわない立ち往生、アイゼンを付けて人力を振るうがブレーキ利かずついにはズルズルとバック止まらない、おっと下には沢。数m、車体を横向きにして、やっとストップ、冷や汗！ここからは人海戦術、ピッケルとスコップがこんな所で役に立つとは・・・。

赤岳山荘Pまでそろそろと引返して落ち着いたのが3時半、30分程の真夜中の脱出劇。車で暖を取り、寝静まったのは4時半・・・お疲れさん。

3月24日(土) 曇り時々雪 8時起床10時15分出発、今日は行者小屋テント場までゆっくり。美濃戸山荘から南沢道を辿り、途中でアイゼンを着け急登をこなす。踏跡は薄っすらとある為心配ないが、明日の北西稜分岐が判りにくい。それらしい分岐を右に2箇所見ながら進み、間違いのない分岐を見付ける(小さな赤布あり)。微かな踏跡が付いているだけで、先人は近々無いようだ。

流れの速い雲に覆われた阿弥陀岳が、雲の切れ目からその姿を現したのはこの分岐である。雪が張り付いた山体に、明日本当に登れるのか不安と期待が頭をよぎる。

分岐から20分程で行者小屋テント場、13時45分着。3～4のテントが風を避けるように張られている。1時間後、我々も寒さの増す中テント設営、まずは乾杯！例年は小屋前に水が出ているが、雪が多い為か埋まっています水は雪を溶かして確保。広いテントでゆったりと過ごして、飲んで、食って、語らい、日が暮れる。気になるのは、トイレだけである。

そうこうしている内にテントが増え、小屋前のブルの音が春への準備を思わせる。北西稜、明日本番、早めの就寝。ちなみにテント宿泊、1000円/人(赤岳鉱泉からの出張徴収)。

3月25日(日) 曇り 3時30分起床いよいよ本番当日、ハーネスをきつめに締める。6時発、分岐6時10分、ルートを慎重に確認しつつ進むが、うっかりすると雪にズッポリだ！。後続のパーティー(3人)が追いつき声を掛け合い、追い越される。谷から右尾根へ移り、樹林帯の急登が続く。ガスに覆われつつ途中休憩をとりながら、岩稜帯の小ピークに出る。

ザイルを出し、それぞれアンザイレンでリッジとその右側面を前に進む。岩にへばりつく氷が手持ちを阻む。先のパーティーは、何処まで行ったか。

8時30分岩稜取り付きである。先のパーティーが岩に取り付いているが、トップが半ピッチあたりで苦勞しているようだ。待機している2人の男女はザイル確保中だが、心配そうである。岩に張り付いた薄氷(ベルグラ)と風は、予想以上に登攀を難しくしているようだ。

この岩稜は4ピッチ、危険と時間の予測ができない。 まだまだ進めそうに無いので、今回は撤退と決める。 阿弥陀岳が2805mだから、ここは2400～500mあたりか、慎重に引返す。

分岐10時15分、テント場10時40着。 一服し、昼食後テント撤収、13時20分発。  
駐車場着14時40分着、30台以上の車か。 15時30分発、もみの湯でこわばった体をほぐし、  
帰阪。 途中、すずらんのさと駅で小俣さんと別れ、諏訪南 IC から高速に乗る（大阪着21時30分）。 今年には特に雪が多く残念でしたが、次回またチャレンジする機会を楽しみに！